

第2回 高知海岸保全フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時・場所：令和2年2月26日（水）10:00～12:00 高知河川国道事務所 4階会議室
2. 出席者：荒木、磯部、加藤、久保、黒岩、佐藤、舛田、森田（敬称略、五十音順）
3. 議事要旨

- Step1 の実験では、人工リーフ改良（離岸堤化）について、計画波浪を対象に離岸堤化部の開口部あり、なしを比較した固定床の実験結果から、消波ブロックの安定性、流れの状況を確認した結果、開口部がない方が安定性、整備効果が高いことを確認した。
- Step2、Step3 の実験では、固定床に置砂をした場合の実験結果ではあるが、人工リーフ改良（離岸堤化）を実施した場合の漂砂移動を確認した結果、特に西寄りの波向では人工リーフの背後に砂が集まって堆積することを確認した。また、計画に必要な砂浜幅が確保された状況であれば、越波が発生しないということも確認した。次に52号離岸堤改良（突堤化）については、今回の実験条件では改良による大きな違いは見られないことを確認した。最後に海岸保全施設整備による悪影響はないということを確認したことから、人工リーフ改良（離岸堤化）の実施あるいは養浜との組み合わせによって、人工リーフ背後の越波を防ぐことができると示唆された。
- Step2、Step3 の実験結果について、東側の方が土砂の堆積がしやすいと記載されているが、実験水槽端部の影響が表れており、実験条件に起因する特性であると考えられる。正確な情報を伝え分かりやすく理解しやすいものにするため、後に残す資料については、修正履歴を明記したうえで修正する必要がある。合わせて、52号離岸堤改良（突堤化）の天端高等の諸元、波高分布等の実験データについても資料に追加する必要がある。
- 検討結果のまとめについて、今回の実験では人工リーフ改良（離岸堤化）によって人工リーフ背後の砂浜が安定したことを確かめたわけではないため、「適切な材料で養浜を実施した場合」など、実施した実験条件における結果であることが分かるよう記述すべき。
- 今回の実験では、52号離岸堤の背後は高波浪時に侵食されやすい傾向であるが、高波浪時だけでなく、エネルギー平均波などの通常波浪でも侵食の可能性があるため、注意すべき。
- 52号離岸堤改良（突堤化）の実験結果において、同じ潮位条件である危険波浪と計画波浪の改良前後の汀線変化の傾向に違いが見られる。波浪によって人工リーフ背後の水位上昇量が異なっていることから、突堤の天端高と潮位や水位上昇量の関係などに着目しながら検討を進める必要がある。

以上